

矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会（岡山県矢掛町）

歴史を再現 町民の思いを一つに

④ さしきにあふれ ⑤ いてきて ⑥ んきなまち

矢掛の宿場まつり
大名行列実行委員会

委員長

堀 伸二



1. 矢掛町の概要

矢掛町は、人口 14,201 人（平成 27 年国勢調査人口）の町で、岡山県の南西部に位置し、高梁川水系の支流である小田川流域にひらけた地域にあり、標高が 15m から 505m の比較的ゆるやかな丘陵に囲まれた盆地をなしています。町内には美しい田園風景が広がり、心安らぐ空間に癒されます。

町域全体の面積は 90.62 km²で、町の東西を国道 486 号と鉄道井原線が走り、山陽自動車道の笠岡、鴨方、玉島インターチェンジまでの所要時間は 20 分～30 分ということで、交通の利便性に優れています。気候は、瀬戸内海気候に属し、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれています。この温暖な気候を活かして、苺や梨、葡萄などの果物をはじめ、様々な農産物が生産されています。



矢掛町の田園風景

また、江戸時代には旧山陽道を往来した参勤交代の宿場町として栄え、大名などが宿泊した本陣と脇本陣が現存する歴史と文化の溢れるまちでもあります。本陣・脇本陣は矢掛町の中心地である商店街にあり、江戸時代の姿をそのまま残しており、身近に歴史を感じることができます。



国重要文化財の矢掛本陣石井家

近年では、旧山陽道の宿場町の町並みを活用しながら、新たに観光拠点施設「やかげ町家交流館」や古民家を改修した宿泊施設「矢掛屋」などを整備するなど、観光によるまちづくりに積極的に取り組んでいます。



矢掛町が再生した古民家ホテル「矢掛屋」

2. 活動開始の背景・経緯

～災害からの復興を願い～

昭和 51 年に矢掛町を襲った台風 17 号は、矢掛町に甚大な被害を与えました。台風による大雨の影響で、商店街周辺の建物は床上まで浸水し、多くの店舗や家屋が被害を受け、町民は落胆しました。そうした状況の中で、町民に再び元気になって欲しいという思いで、商工会員を中心とした若者が集まり、復興に向けた意見を交わす中で、被災した町並みの復興と町民が元気になることを期待し、歴史ある町並みを活用した祭りができないかという案が出されました。そして、町民や周辺企業からの寄付や協力を受けながら、実行委員会の手作りで第 1 回の「矢掛の宿場まつり 大名行列」が開催されました。



第 2 回開催チラシ

第 1 回の大名行列はわずか 20 名で観客もほとんどいない小規模なものでした。しかし、これをきっかけに、毎年継続して開催するにつれて、徐々に参加人数や協力者が増え、平成 30 年には 43 回の開催を数え、80 名の大規模な行列となり、観客数も 3 万人を越える矢掛町を代表するイベントとなりました。



多くの人で賑わう大名行列

3. 活動の内容

～町民が支え合う持続可能な組織～

矢掛の宿場まつり実行委員会は、岡山県備中西商工会内に事務局を設置し、地域住民や町内の企業、各種団体など幅広い分野の方々が参画し、構成されています。また、地元にある岡山県立矢掛高等学校の生徒も運営に参加するなど地域を巻き込んだ活動となっており、年間を通じて、まつりの内容検討や運営方法など意見交換を重ねています。

大名行列は、単に衣装を身に着けて歩くだけでなく、それぞれの配役に見せ場を作るなど工夫をしています。また、大名行列のみならず、地域の小学生が参加する飛脚駅伝大会や鉄砲隊による火縄銃の演舞、和太鼓の演奏なども行われます。

4. 活動の広がり

～世界へ広がり、そして繋がる宿場町 YAKAGE～

実行委員会の活動は、当初は災害復興を目的とした「矢掛の宿場まつり 大名行列」の実施がメインの活動でした。しかし、近年ではイベント実施だけにとどまらず、イベント

を通じて矢掛町を知っていただき、「矢掛に住んでみたい」「商売をしてみようか」というニーズを聴取し、移住支援や店舗等の創業支援も積極的にを行っています。商店街等の空き家や空き店舗で「何かしたい」という要望があれば、行政と協力しながら情報提供やマッチングを行っています。

また、実行委員会では、国際交流とインバウンドにも積極的に取り組み、町内企業に研修生として来ている外国人研修生の大名行列への参加を実施、あるいは英語等でのPRビデオの制作やインバウンド向けの雑誌によるPRなど国際的な情報発信にも取り組んでいます。



インバウンド向け雑誌でPR

こうした活動が広がり、平成29年4月には、アメリカ合衆国のサンフランシスコから大名行列を「サンフランシスコ桜祭り」において披露して欲しい旨の依頼があり、矢掛町から約50名が渡米し、現地の参加者と合わせて総勢80名の行列を披露しました。



サンフランシスコで披露

5. 活動の継続性

～受け継がれる町への誇り～

矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会は、昭和51年の設立以来、町民の意見や来訪者の意見を大切に、常に改革改善し活動しています。また、企業や学校とも連携し、新たな人材発掘や協力者の確保に努めています。また、住民が地域を愛し、地域に誇りを持って取り組んでおり、親から子へと取組が受け継がれてい

ます。また、町外から移住してきた方や地域おこし協力隊などの移住者の受入れも、積極的であり、柔軟に対応しながら時代に合った組織づくりをしています。

また、設立当初から常に自立した運営を心がけ、行政に頼ることなく自主財源で運営しています。

6. 地域資源の活用

(1) 歴史と文化資産と人材を有効活用

矢掛商店街は江戸時代の旧山陽道に面した商店街で、古い町並みを残しています。この矢掛商店街の特徴は、古い町並みが残っているというだけではなく、古い町並みを残しつつ、そこに人々が生活しているところでもあります。平成27年に矢掛町が観光元年として動き出す以前は、地域住民自体もこの町の価値に気づいておらず、有効活用がなされていませんでした。歴史的町並みに人々が生活している空間に価値があるということ、を、再認識し、空き家や空き店舗を積極的に活用していただくため、マッチングを行っています。



個人による古民家再生店舗

(2) 伝承するおもてなしの心

イベント等を行うために、多くの町民がボランティアで参画し、衣装の着付けや化粧などは地元の女性有志の協力いただいています。また、来場していただく方々への「おもてなし」と「人と人の交流」を念頭に、地域住民と高校生による御茶席を設けて抹茶をふるまうなど、伝統文化も継承しています。



ボランティアによる化粧

7. 活動の成果

(1) 協働で守る、町の誇りと地元愛

実行委員会が活動を開始して以来、「矢掛の宿場まつり大名行列」は43回の開催を数え、現在では矢掛町を代表するイベントとなっています。情報発信することで、多くの来訪者を招き、また、テレビや新聞など多くのメディアに取り上げていただくことで、自分たちの町の魅力と価値を再認識し、地元愛を醸成しています。また、イベント準備や運営などを通して、地域の人々が交流し協力し合いながらコミュニティの維持・活性化にも大きく寄与しています。

(2) 矢掛の魅力を情報発信、交流人口が大幅増加

情報発信については、新聞や雑誌、テレビ、ラジオなどのマスメディアをはじめ、近年ではSNSなどを活用し、タイムリーな情報発信をしている。その効果もあり矢掛町への観光客は増加し、空き店舗が多くみられた商店街に、新たに出店する人が増え、企業や雇用の創出につながっています。

8. 課題と展望

～人口減少社会への挑戦～

少子高齢化が社会問題となり、地域の衰退が懸念されていますが、わが町矢掛も中山間地域であり、過疎化は深刻な課題であります。実行委員会では、単にイベント企画実行だけでなく、イベントや観光を通じたまちづくりを「観光まちづくり」と呼び、観光もまちづくりの一つと考え活動しています。後継者や担い手不足による商店街の衰退や人口減少への対応は行政だけではなく、そこに生活する者たちが自ら考え、自ら行動することが重要だと考えています。人口減少をただ単にマイナスとして考えるのではなく、この危機的な状況をチャンスに変えるべく新たなアイディアとチャレンジ精神を持ち、実行していきたいと思えます。

さらに、この古き良き町が今後も繁栄していくためにも「一流のふるさと やかげ」のブランド化を目指して、町民の思いをひとつにしなが、ら、みんなに愛される町になるよう地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。